

NZに合弁会社設立

来年一月から操業へ

矢崎アライド・ニュージーランド株主をF&Pを生産

矢崎は、ニュージーランドの大手電気メーカーであるフイッシャー&ハイクル社（資本金二億八千万円、M・ハイクル社長、本社オークランド、年商二億五千万円）と合併して、ワイヤーハーネス生産の「F&P社」を設立した。

これは、同国内で現在組立られているワイヤーハーネスのより一層のQCD（品質、コスト、納期）向上をはかるため、同国内のカーメーカーからの進出要請にお応えしたものであり、また本年の取引先であるF&P社からの懇請にも応じたものである。

資本金 約一四八〇万円（NZ\$二〇〇万）
出資比率 矢崎五〇％、F&P五〇％

役員構成 矢崎三名、F&P三名（社長は第一）

対象事業 各種ワイヤーハーネス（自動車用、航空機用、家電用ほか）

工場延坪 第一工場六〇〇〇平方尺、第二工場二〇〇〇平方尺

従業員 約六〇〇名
生産規模と目標 現在の月産約五千台から数年内に月産一萬一千台分に引き上げる計画

所在地 ニュージーランド、オークランド市



「マオリ族独特の親愛のあいさつ「ホンギ」（お互いの鼻をこすりあわせる）。マオリの女性とホンギする矢崎社長（マオリの女性は矢崎アライドNZ社の従業員）」



ニュージーランド原住民族のマオリ族の古典的な歓迎行事。マオリの戦士が槍をとって侵入者に立ち向う。侵入者がシダの葉か緑の小枝をとれば、それは友好と親善のサイン。そこで初めて戦士は槍をおさめ、歓迎する。中央がミドリの小枝をもった矢崎社長（マオリの戦士は矢崎アライド・ニュージーランド社の従業員）

見習うべき多民族工場

社長のニュージーランド帰国談

矢崎社長は海外本部のK・ユーベルシュラック副本部長、高原部長およびYAP（矢崎オーストラリア）のP・レイウを伴ってオークランド入り。11月7日、現地でフイッシャー&ハイクル社と新会社の合併調印を無事終えられた。

以下は社長の帰国談――

「現地での印象に残ったことは、①時差の関係からいって世界先進諸国で、最も早く一日が始まるのがニュージーランドだ。それだけ国際情報最先端拠点としての価値が高まっている。②F&P社は十数年前から、多品種少量のワイヤーハーネス組立を堂々

と続けており、その多種少量生産技術はすばらしいものがある。見習うべき生産ノウハウが山ほどあった。その点、矢崎はまだまだ努力が足りない。③原住民族のマオリ族とヨーロッパ人が見事に融和し、さらに周辺の島国の人たち、ラオス、カンボジア、ベトナム、マレーシア、中国、フィリピン人など多彩な民族が混在し、文字通り「多民族工場」を営んでいる。

矢崎アライド社にも約十四種族、六〇〇人近い人たちが問題なく働いている。このような多民族企業には教ええられる点が多い。

産台数七、八万台の、典型的な多品種少量生産の市場であるが、GM、フォードのほかトヨタ、日産、ホンダ、マツダ、三菱、富士重、ダイハツの日系七社が進出している。日本矢崎としては、新会社に生産技術、品質、設計および研究開発の成果を供与し、QCDの向上につとめる。

矢崎副社長は「ニュージーランドだけを見ると小さな規模であるが、オーストラリアも含め、オーストラリアの納入量が増え、フィリピンやタイから応援していたが、その分をニュージーランドが担当し、タイ、フィリピンのオ

ーストラリア向け分は北米市場に向ける」ことを表明。